

第2回セミナーを5月16日(土)13:30~15:30に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会場 愛知文教大学 201教室

テーマ 「年度当初から、なぜ、これほど「深い授業」が実現するのか？」

授業者 小牧市立北里中学校 佐々木 大揮 先生

コメンテーター 学び合う学び研究所シニアフェロー 副島 孝 先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、探索的言葉とドゥルーズの反復です。

副島先生、佐々木先生ありがとうございます。たくさんの仲間が参加してよかった～と話していました。

今日学んだ私が「できたてほやほやの言葉」を仲間に聴いてもらって対話やリフレクションを反復し、さらに学び続けていきたいと思います。

仲間が来月も参加したいと話していました。来月の学びもたのしみです。よろしくお願いします。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、教師の教育哲学 授業で大切にしている理念です。

佐々木先生が日々の授業の中で大切にされていることが、子どもたちの大切にしたいことになっていた。共に学び合う仲間を大切に、子どもたち自身が仲間と学び合うことに、自然と価値を見出していたように感じた。それは、これまで佐々木先生が丁寧に子どもたちの取組を価値付ける声かけや授業展開を心がけていらっしゃってきたからだと分かった。教材を仲間と学び合うことを通して、学び方を育む、学校としての取組が、授業者の在り方に落とし込まれ、子どもたちに段階的に身に着けさせられるよう、仕組みられていて素晴らしい。卒業後も、自ら学び続けられる人に育っていると思う。学び合う楽しさや充実感が伝わってくる授業だった。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、聞き手を丁寧に育てていくことです。

本日は貴重なお話をありがとうございました。自身が小学校勤務であり、中学校の学校としての取り組みや授業を見る機会がなかなか得られず、学びの多いセミナーでした。

特に拝見させていただいた授業では、学び合うことを通して、国語における探究的な学びを見ることができ、明日からの授業に意識していきたいと強く思いました。学び合うこと、聴き合うことを大切に育てることで、探究的な深い学びに繋がるものだと思います。子どもたちの学びの姿勢に向き合い、段階を見極めて、子どもたちと挑戦していきたいと思えます。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、教師の作法というか居方が大事だと授業ビデオや逐語記録から実際場面を通して改めて感じた。教師が子どもをよく見取り、よく聴く姿勢をもっているからこそ、子どもたち相互にも友達を見てよく聞く姿勢が育っていると思った。自分としては逐語記録のNo. 27 からの 36 の子どもの意見の広がりとその間の教科書を手繰る姿に感心した。

副島先生の最初のプレゼンにあった北里中の教師の役割の「わかったつもりにさせない」、学びの作法のタブレットをグループワークの際には画面を倒す、という点は自分がSVで訪れる学校でも話をしてきているのですごく共感できた。

すごい学校でなく普通の学校が実践していることだからこそ参考になる。この日は、たまたま若い先生と同じグループになって、新鮮な視点での気づきや平素の困り感を聴けてよかった。今後も若い先生の参加が増えるといいと思った。

今日は、セミナーに参加させていただき、ありがとうございました。子どもがテキストの解釈・探究に共同的に集中している姿が大変すばらしく、わくわくしながら逐語記録とビデオを拝見しました。特にグループ活動では、子どもが迷いつつも「そうじゃないかな」「そうだよ、多分」とお互いに確かめ合う様子が見られ、＜わかりつつある姿＞が現れているところが印象的でした。グループ→全体での発表という形式は、グループ内で練習した成果を全体の場で発表する、といった形になってしまうことも少なくありません。しかし、佐々木先生の授業ではそのような構図には陥らず、グループでも全体でも、意見交流を通して各自の読みを深めていたように思いました。佐々木先生の教材研究と子ども理解の深さはもとより、柔らかくも明快な指導言や子ども同士の聴く力が、このような学びに集中できる場を構成しているのだと思いました。また、反復であっても一回一回異なる経験をしているという副島先生のお話が印象に残っています。子どもが同じ言葉や行為を繰り返す授業場面であっても、背景や文脈やその子の内的状況に目を向ければ、単なる再現にはなり得ません。授業の動的な過程をとらえる視点の重要性を再認識しました。貴重な学びの機会をいただき、誠にありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、めざす授業の明確さです。

文の中に潜む面白さを、読むことによって気付き、仲間と話し合いでより深い自分なりの読みへと導く。授業者の授業にかける思いが明確であり、そのねらいに向けどういう手立てが必要か、常に考え続け、工夫をして作り上げた学級づくり・授業づくりであることを学ばせていただきました。

何よりも、生徒達が安心してよく話せるのは、何を言ってもよく聴いてくれる仲間づくりがされていること。授業者が生徒の話をよく聴きつつ、No. 10, 37, 42 のように、その時々話し合いの視点・足場かけをされていることも大きいと思いました。

そして、学校として授業づくりの方針が明確で、おそらくどの先生も同じ姿勢で臨まれていることが、生徒にとってはどの教科でもあっても安心して学べ、深め合うことにつながっているのではと思いました。

たくさんのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。